

第1 計画の前提

第1 計画の前提

1 背景と目的

千秋公園は、秋田藩佐竹氏20万石の居城「久保田城」※を礎とし、本市の歴史、伝統、文化を集約した象徴的な文化遺産であるとともに、古くから市民の憩いの場として親しまれています。また、千秋公園は本市の玄関口であるJR秋田駅に近く、中心市街地に位置することから、県内外のみならず海外からの観光客も訪れています。

本整備計画の改定は、「昭和56年 千秋公園整備基本計画」、「平成9年 千秋公園再整備基本計画」（以下「前計画」という。）を受けて、社会情勢や市民ニーズ等の変化に対応した整備計画へ改定するものです。改定に当たっては、これまで継承してきた久保田城および千秋公園の歴史と、まちの中で育まれてきた自然環境を活かすとともに、誰もが利用しやすい公園づくりをすることにより、市民の憩いの場や、誰もが楽しめるにぎわい空間の形成を目指すものです。

(1) 千秋公園の位置づけ

千秋公園は、JR秋田駅に近く、豊かな緑と貴重な歴史的遺産を有する都市公園であり、市民に親しまれ、秋田市民の心の拠り所ともいえる場所です。

また、活性化への取組が進む中心市街地において、緑の拠点・歴史的象徴と位置づけられています。

(2) 久保田城の歴史と特徴

久保田城は、常陸国水戸城（茨城県水戸市）から秋田に転封された初代藩主佐竹義宣が、慶長8（1603）年に起工しました。神明山の丘陵をそのまま活かし、土塁と堀で構成された平山城です。天守閣は築かず、8基の櫓と2階建ての御出し書院が置かれました。佐竹氏は12代で明治維新を迎え、明治13（1880）年の大火で、御物頭御番所以外の本丸建物はほとんどが焼失しました。現在、城跡は千秋公園として整備され、表門などが再建されています。

佐竹義宣は、久保田城の築城に当たって、仁別川(旭川)の掘り替えによって外堀の役目を持たせ、同時に侍町と町人町を分離させた都市計画を行っています。また、神明山の東側の沼地や北側の手形山などの丘陵は、自然の備えとなり、自然と周辺地域を一体的に活用し、密接に関連づけた築城をしており、土塁と堀の構造と配置の妙は、ほかの城に優るとも劣らないものとなっています。このような構造をもつ平山城であったことが、市街地の中心部にありながらも、豊かな自然が残り、市街地を見渡す眺望を楽しむことができることから、永く市民の憩いの場所となっています。

※ 「秋田城」と称することもあるが、本計画では「久保田城」として統一した。

(3) 千秋公園の歴史と特徴

明治29（1896）年に、近代公園設計の先駆者で祖庭ともいわれる長岡安平の設計により公園として整備され、秋田県出身の漢学者狩野良知が千秋公園（当時は「千秋園」と命名しました。その由来は、秋田の「秋」に長久の意の「千」を冠し、長い繁栄を祈ったものといわれています。昭和59年に、佐竹宗家義榮氏の遺志によって市に寄贈されました。

千秋公園は、内堀以北の豊かな緑に覆われた丘陵地の空間と、外堀までの文化施設が立地する低地部からなっています。外堀の周辺は、中核施設の立地等、市の重要な拠点として市民生活に密接に関わり、内堀から丘陵地にかけては、公園として長岡安平の造園以来、120年にわたる歴史を有し、古くから市民に親しまれてきました。

また、日本の都市公園100選、さくら名所100選、日本100名城、池坊花道遥100選（大手門の堀のハス）、市指定文化財（名勝）に指定され、全国でも有数の公園となっています。

利用上の特質をみると、さくらやつつじの花見の時期には多くの利用者が訪れ、日常的に花や緑の観賞、自然とのふれあい、散策・ウォーキングの場として利用されています。そのほか、JR秋田駅に近接した公園として多くの観光客が来園しています。

2 計画対象範囲

本計画は、千秋公園の都市計画公園区域を対象範囲（中央図書館明德館および旧県立美術館の敷地を含む。）とします。

都市計画公園区域内の用途地域は、第一種低層住居専用地域と第一種住居地域、商業地域に指定されています。前計画では、都市計画公園区域北側の北の丸地区等も計画対象としていましたが、都市計画法等の整備に関する法制限もなく、計画実現性が低いことから、本計画では範囲から除外します。

なお、都市計画公園区域内の八幡秋田神社、彌高神社周辺および県民会館・秋田和洋女子高校の敷地は現在未開設区域となっています。

(1) 計画対象範囲の面積

計画対象範囲の面積は、次のとおりです。

都市計画公園区域	20.7ha（うち未開設区域4.34ha）
中央図書館明德館、旧県立美術館	1.8ha
計画対象範囲	22.5ha

(2) 計画地周辺の用途地域

計画地南側の広小路周辺は商業地域であり、旭川およびJR奥羽本線側は第一種住居地域、北の丸地区周辺は第一種中高層住居専用地域となっています。

都市計画道路は、計画地南側に都市計画道路秋田駅八橋線（広小路）、北側および東側に都市計画道路秋田環状線（千秋トンネル通り、大手門通り）が隣接しています。

3 計画期間

計画期間は、短期、中期、長期に分け、段階的な整備目標として設定します。

短期	早期に対応すべき施策（5年以内）
中期	相応の準備期間を要する施策（15年以内）
長期	次世代への継承も想定して対応すべき施策（将来的整備）

計画対象範囲図

